

「主に従うということ」(要旨)  
聖書箇所：マタイの福音書16章21~28節

### 【1】 イエスの受難予告

主イエスは、ペテロの「あなたは生ける神の子キリストです」(マタイ 16:16)という信仰告白を受けて「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。」(同 16:18)とされました。このやりとりの後、イエスはご自分の受難を弟子たちに予告するようになりました(参照同 16:21,17:22-23)。

「…ご自分がエルサレムに行って、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならない…」(同 16:21)

イエスは弟子たちにご自分の達成目標を掲げたのではありませんでした。この「…なければならない」とは、神のご計画が時至って実現する必然性を意味します。イエスは十字架を前にして「わたしが望むようにではなく」(同 26:39)や「あなたのみこころがなりますように」(同 26:42)と祈られています。ご自分が神の「みこころ」に従うためにエルサレムに向かうと、弟子たちに示されたのです。

### 【2】 主よ、とんでもないことです！

イエスを慕う弟子たちはイエスの受難予告に動揺し、怒り、そして悲しみました。

ペテロはイエスに前言を撤回させる勢いでいさめました。「主よ、とんでもないことです。」(同 16:22) さあこれからだ！という場面で自分たちの気持ちを挫くような発言をしないでほしい、そうペテロは考えたのでしよう。

イエスの「三日目によみがえらなければならない」をそのまま受け入れることができれば、それは死を恐れる人間にとって大きな慰めや希望となったでしょう。しかしペテロが理解したのは、苦しみを受け殺されるころまででした。復活についてはどういふ訳か聞き流してしまいました。そして、自分の考える正しい道にイエスをひっ

ぱっていかうと、イエスの前に立ちはだかったのです。イエスはこうしたペテロを強いことばで叱りました。「下がれ、サタン。あなたは、わたしをつまずかせるものだ…」(同 16:23)と。ペテロは結果的に神のみこころに従って受難の道に向かうイエスの道を妨害していたのです。

このやりとりを通して、弟子たちとイエスの見ている視点が異なっていたことが明らかにされます。弟子たちは「人のことを思って」いました。イエスは「神のこと」を思っていました。イエスの受難予告は、人の目には敗北でしたが、神の目には人類救贖のご計画が時至って実現する勝利の日でした。

### 【3】 主に従うということ

イエスは弟子たちに「わたしに従って来なさい」(同 16:24)とされました。イエスに従うとはどういうことでしょうか。メッセージ訳聖書は「わたしに従って来なさい」を「あなたの運転席ではない：わたしのだ」と意識します。主に従うとは、私が運転するのではなく、主を自分の車の運転席に迎える生き方です。「この道については自分が一番詳しい」と、ハンドルを握り続けることをやめるということです。

▷1日の始まりに、キリストは私に何をすることを願っているだろうか…と思い巡らそうではありませんか。キリストに自分の人生の運転席に座ってもらうことを通して、人は本当の意味で幸いな道を歩むことができるのです。

